

☐ はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 井原 ラーゴム

日付 平成 21年 3月31日

特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

今年もこのホームの訪問調査をさせてもらった。昨年訪問した時と変わったことが2つあった。1つは管理者が交代したこと。同じ男性であるが、話しを聞いていると今まで介護職の人と話しているのと考え方が違う。分析とか原因探策、医師との情報交換など今迄介護士の管理者と話しているのと感触が異なり、「この人いけるぞ!!」と思って前歴を聞いてみると、銀行に5年間勤め、ノルマ、ノルマの毎日にうんざりして退職し、家庭の環境も参考に介護福祉の専門学校に2年間通い、きのこエスポール病院に就職して7年になる事が分かった。病院では介護職の指導や相談を受けていて、始めてグループホームの管理者となった。それで介護職から聞き慣れない言葉や考え方が出ているんだ。この人と話しをしていると今考えている事で精通できるかなあと嬉しくなった。将来が楽しみである。

もう一つは、男性利用者が入り、雰囲気が少し変わったことである。まだ元気でほかかな人なので、何でもホームの中で出来そうと思った。このようなことで大分雰囲気が変わるのではないかと余計なことを考えてみた。

まず利用者の行動に対する問題をさがして、それを分析して原因を探策する。認知症の人の生活の部分と病気の部分に分けて、その人の問題を分析してみる。そしてその人がどのような生き方、生活をすれば良いかの課題を見出そう。何もせずに考えるのではなく、これらを実行する習慣を職員につけていきたい。そして利用者にとってどんなケアをしていけば波及効果が高いかを見つけて、どうだこうだろうという効果を見てもらえば職員も納得してもらえる筈だと思う。頭が固い、現状を変えたくない人にも考えてもらいたいと考えているそうだ。利用者の思いや希望を叶えてあげる事も大切だ。利用者の言いなりになるのではなく、その人が本当に何をしたいのかを捜す。常に利用者の云ったり、することは職員が自分に置き換えて考えるとよく分かる筈だ。全てを認知症のせいにはしないでもらいたい。利用者はどういう人ですか？ 家族からしっかり情報収集をして、家族が困る事に関して、ホームと一緒に解決できたら、家で生活できる人もいるのではないかと、管理者は言ってくれた。私達が認知症の人や家族に求めていることと一致するところが多く、介護専門職の中から始めてこのようなことが聞け、私達が介護職に訴えたいと思っている事に勇気づけられた。こういう考えが定着すると認知症ケアの仕方が根本的に変わり、日頃の仕事が効率的になり、主要なポイントを押さえれば、認知症という観点より、人間ケアという方向に変わっていき、介護職としてレベル向上につながるのではないかと感動した。

特に改善の余地があると思われる点

利用者のアセスメントをするための情報収集をしていこうとしていることは大変良いことであるが、単なる項目の列記でなく、その人の一番輝いた時のこと、誇らしいこと、子供のことなど主要な事は、その時のエピソードとしての列記をする等して感情を伴うものにしておくと、コミュニケーションにも話題性のあるきっかけづくりが出来ると思う。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：事務所には掲示してあり、この理念を変更することはないが、もう少し地域の人とも連携をして、運営推進会議を活用して理念を別の角度からも考えたらどうかと検討しているようだ。 2、全体的に見て…：「井原ラーゴムに集える一人ひとりが楽しめる家創」というのが掲げている。利用者や職員はもちろんであるが、家族や地域の人にもホームに来てもらったり、地域との交流をもっと盛んにしたいと考えている。利用者の情報も家族から聞いているが、地元の人も多いので、地元の知り合いや友達からも利用者のことで知っていることの情報を集め、現在の身体状況や病気の状態を考えて、何をしてあげたら効果的なのか、その人の機能に対して波及効果の高いケアは何なのか等、人間として一番大切なアセスメントにつなげたいと考えている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：同じ建物の1階部分がデイサービス事業所で、階上がグループホームである。ホームの建物及び設備は利用者にとっても充分満足できるものになっているので改善事項はない。 2、全体的に見て…：グループホームの利用者は、デイサービスに行き過ぎて過ごすことがある。このホームの近い地域から来ている利用者はデイサービスで馴染みの人と会って楽しんでいる。又、他でも地域の人との交流も積極的に進めており、地域と広く深く交流していった、利用者も含めた人々との動線がホームの内に止まらず、地域の中に広がっていることが望まれている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	評価	不能
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：ケアマネージメントに関して改善すべき事はないが、新しい管理者の考え方に添ったアセスメントからカンファレンスに至る具体的なケアに関する考え方や仕事のシステム等改良は進められるであろう。 2、全体的に見て…：男性の利用者も加わってホームの中が明るくなった。そして色々なところで会話も弾んでいる。トンチの効いた会話も面白い。「あの人先生をしてはったんよ。歌の先生？ ちがう？ 何でも屋の先生か？」「私独身よ。恋もできるよ、鯉のぼりか？」「まあ頭もボケてるから楽といえば楽じゃ。そのうち迎えも来るじゃろう」「皆楽しくしてもらおうから年もとらん」「家におったら何もせずにバカにされとったら、女性ばかりの中に入れてもらうて、私は一番若い。大人衆悪いことせんから、よう入れてもらえた」と好きなことを口にして会話が弾んでいる。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	1、自主評価について…：特に改善するところはないが、家族との関係を更に良くしていきたいと管理者は思っている。今でもよく家族は訪問してくれているが、行事や催しの時に家族に積極的に参加して交流してもらいたいと考えている。 2、全体的に見て…：運営推進会議は3ヶ月に1回の割合で開催し、市職員と地域の民生委員、家族が参加してホームの関係者と開催しているが、参加者と学校や幼稚園の校長や園長に参加を呼び掛けたり、地域の幅広い人にも参加を発表してもらい、グループホームというものをよく知ってもらい、グループホームではどんなケアをして利用者がどんな生活をしているのかを本人や家族の当事者から云ってもらおうと全職員のしていることが理解でき、ホームの存在価値を高めることができると思う。		